

令和2年度普及活動の実績
普及活動の軌跡
(Part - 26)



農業塾「ねぎコース」



農業用ブルドーザーによるほ場均平化実演会



環境制御技術を活用している若手生産者たちの相互巡回



中山間地でのドローンによる防除

令和3年3月
長生農業事務所
長生農業改良普及事業協議会

発刊に当たって

長生地域の農業は、温暖な気候の下、生産者の高い技術と意欲で築き上げられた「長生／ながいきブランド」の農産物の産地として発展してきました。また、早くから国の水田農業施策を積極的に活用し、水田の基盤整備や先進的な集落営農モデルを築いてきました。

主力品目であるトマト、ネギ、ナシなどでは、産地としての出荷量の増加を目指し、「収量向上」「規模拡大」へ向け、スマート農業を活用した施設の拡充、機械導入等による省力化、所得向上のための経営改善、新たな担い手の確保が必要となっています。

水田地域においては、集落営農を通じた農地保全、低コスト化の推進、稲WCSや飼料用米の導入など各種施策も活用した所得向上及び農地中間管理事業による担い手への農地集積の推進が重要課題となっています。

一方、令和元年秋の台風、大雨の被害による農業用施設等の復旧に向けて取り組んでいる中、令和2年当初から新型コロナウイルスの感染拡大により、従来のように講習会や巡回指導等が十分にできない環境となりました。

そのような状況下ではありますが、令和2年度の農業改良普及指導計画では、「第10次普及指導5か年計画」（平成28年度～令和3年度）及び「長生地域農林業振興方針」（平成30年度～令和3年度）に基づき、下記の4つの普及指導課題を設定し、対象及び実態についての調査と分析を行い、展開計画に基づき、活動方法を工夫しながら展開してまいりました。

- 1 既存産地の維持強化を目指す園芸産地づくり
- 2 農業基盤を守る水田営農
- 3 新たな地域農業の展開
- 4 長生農業を支える多様な担い手の育成

本冊子では、令和2年度の「普及活動の成果・報告」4課題、「情報提供」4課題を生産者の皆様をはじめ、市町村、農業団体、試験研究機関等の協力を得ながら「普及活動の軌跡Part-26」として取りまとめることができました。

これらを今後の農業振興、事業推進等に御活用いただければ幸いです。

令和3年3月

長生農業事務所

所長 宇都宮 康

令和2年度普及活動成果集「軌跡」

目 次

1 普及活動の成果・報告

- (1) 長生ねぎ産地のチャレンジ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
— 新規生産者の確保と生産・販売体制の強化 —
【第20回千葉県普及活動成果発表大会発表課題】
- (2) トマト黄化葉巻病の被害減少を目指して・・・・・・・・・・4
— キルパーによるトマト古株枯死技術の検討 —
- (3) 中山間地域におけるスマート農業技術活用体系の構築を目指して・・・・・・・・6
— 農薬散布用ドローン・リモコン草刈機の実用性を検証 —
- (4) 地域に根ざした生活改善グループ活動・・・・・・・・・・8
— アグリライフ長生設立60周年～この10年間を振り返って —

2 情報提供

- (1) 施設花き栽培における微小害虫の防除・・・・・・・・・・10
— I P Mによるバラの害虫防除 —
- (2) ジャンボタニシ対策技術の実証・・・・・・・・・・11
— ジャンボタニシによる水稻の被害減少を目指して —
- (3) 長生農業独立支援センターと連携した新規就農者の確保・・・・・・・・12
— 農業次世代人材投資事業（準備型）研修の活用を見据えて —
- (4) 長生ヤングパワーズクラブが長生地域の農業の魅力を発信！・・・・・・・・13
— 地域の特産物紹介ポスターを作成 —

3 参 考

- (1) 令和2年度普及現地情報・・・・・・・・・・14
〈千葉県HPに掲載された一般情報〉
- (2) 主な出来事・・・・・・・・・・21

長生ねぎ産地のチャレンジ

— 新規生産者の確保と生産・販売体制の強化 —

長生農業事務所改良普及課

活動事例の要旨

長生地域のねぎ産地では、平成 24 年以降、生産者、関係機関が一丸となって産地課題を整理し、産地再構築の取組を開始した。特に優先順位の高い、「担い手の確保」と「収量・品質の向上」を実現するため、新規生産者の増加及び定着と、生産・出荷に関する体制の強化に取り組み、産地の生産者数を維持している。

1 活動のねらい・目標

JA 長生のねぎ出荷者は、平成 18 年の 131 名から、平成 24 年には 101 名と減少した。そのため、JA 長生及び生産者の団体である JA 長生ねぎ協議会と協力し、新規ねぎ生産者の発掘及び定着による担い手の確保を目指した。

また、組織の生産体制強化による出荷量の安定を図るため、育苗委託体制の強化や JA 長生が運営する出荷調製施設における生産ラインの強化を検討するとともに、共同利用を含むセル苗移植機の普及を促した。

2 活動の内容

(1) 新規生産者の発掘及び定着の取組

ア 新規生産者の栽培技術習得支援

JA 長生、長生農業独立支援センター、市町村と協力し、地域内外の農業者に対して JA 広報誌等でねぎ栽培を呼びかけた。

就農後の技術習得は、令和元年度から JA 長生、ベテラン生産者と協力し、一年間の主要作業を学ぶ農業塾（ねぎコース）を年 7 回開催し、基本的な技術習得を促すとともに、地域の出荷部会への参加を促し生産者同士の交流による技術交換を進めた。また、JA 職員とチームを組み、個別に巡回指導しフォローした。併せて、雑草対策、病害虫対策等、基本的な技術について展示ほを設置し指導に活用した。



写真1 農業塾（ねぎコース）の開催



写真2 泥付き長生ねぎの荷姿

イ 簡易的な出荷形態の導入

新規生産者は、除草や土寄せ等の管理が適期にできないことや、台風後の対策が十分でないこと等から、揃いの良いねぎの生産が難しく、出荷調製に多くの時間を要する場合が多い。また、出荷調製施設の利用を前提として栽培している生

産者は調製機械を導入していない場合も多い。そこで、JA や出荷組織と協議し皮を剥かずに出荷できる、泥付きでの出荷を提案した。

(2) 生産・出荷に関する体制の強化

ア ねぎ育苗ハウスの台風被害からの復旧推進

本産地は水稲とねぎの複合経営が多く、水稲と秋冬ねぎの育苗の時期が重なるため、秋冬ねぎの育苗を委託できる体制がある。しかし、令和元年9月15日の台風被害により育苗受託農家のハウスが全壊したため、産地の15%に当たる、約5ha分の苗生産に影響が出ると予想された。そこで、JA や市町村と協力し、被災直後から全生産者の育苗ハウスの被害状況を調査し、次年度の苗の確保について関係者で協議を行った。被災農家に対しては、被災事業の活用が円滑に行われるよう情報の周知徹底を行った。

イ 出荷調製施設の作業ライン改善

生産者の出荷調製施設への期待とは逆に、施設の利用者や処理数量は増えなかった。理由は、出荷調製施設のラインでは、手で触れる回数やコンテナに入れる回数が多いため、葉の折れ等が発生し、下等級となる場合が多くあったためである。一方、運営側としては、パート従業員の人数確保が課題となっていた。

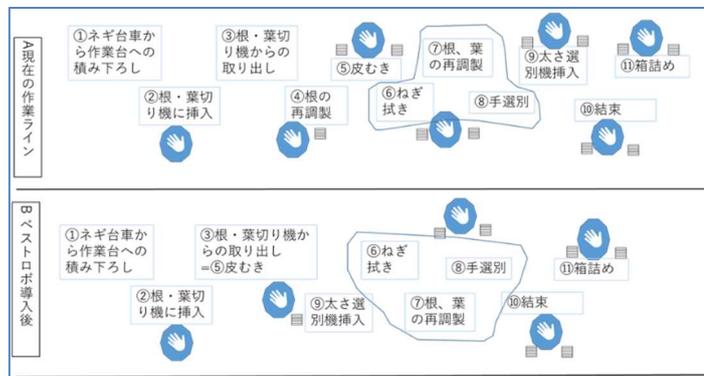


図1 出荷調製施設ラインの改善提案図

そこで、下等級が発生する理由を調べるとともに、優良農家の作業場を調査し、人員削減や処理能力の向上につながる点を探り、生産ラインの改善を提案した。

ウ セル苗定植機の利用拡大

本産地はチェーンポットによる定植が主であるが、定植時期の天候不良等により、初期の生育不良が問題となっていた。また、高齢生産者からは苗の配置など、定植作業が負担になるとの意見が多かった。そこで、セル苗を活用した定植機の利用拡大を推進するため、生産者の協力を得て移植機の実演会を実施し、安定生産と高齢生産者の栽培継続を促した。

3 活動の成果

(1) 新規生産者の発掘及び定着の取組

ア 新規生産者の栽培技術習得支援

平成28年以降も新規生産者は毎年数名ずつ増えており、全体の生産者数は維持されている。地域別では、海側

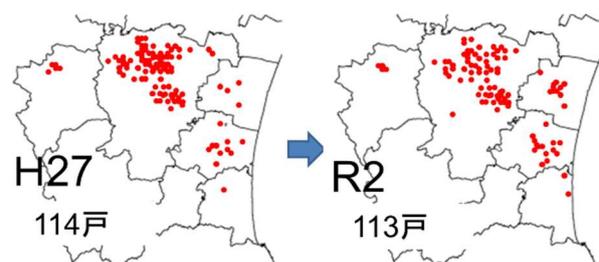


図2 H27年とR2年の生産者の分布比較

の地域で増えている。

(H27年：114戸⇒R2年：113

戸) また、50歳以下の生産者は平成28年以降16名増えてお

り、全生産者の2割以上が50歳以下の生産者となった。各地区の出荷組織の役員や研究部員にも若手生産者が抜擢され、各組織の活発化に繋がっている。

表1 H28年以降の新規生産者の人数

	H28	H29	H30	R1	R2	合計
新規生産者	8	5	5	5	3	26
うち50歳以下	4	4	2	4	2	16

イ 簡易的な出荷形態の導入

泥付きでの出荷を令和元年11月から導入した。初年度は新規生産者を中心に7人が、約800c/s(9.6t)を出荷した。取り組んだ生産者からは「出荷調製が容易であり取り組みやすい。」「調製施設が稼働していない時期から出荷が可能のため、出荷期間の拡大につながる」との評価があった。

(2) 生産・出荷に関する体制の強化

ア ねぎ育苗ハウスの台風被害からの復旧推進と新たな育苗体制の検討

ハウスの一部が再建されたことや、播種スケジュールを変更することで必要な苗数を確保することができた。一方、苗を安定的に供給する体制を構築する必要があることが再認識されたため、地域外の苗生産業者への委託も試行している。

イ 出荷調製施設の作業ライン改善

品質低下の防止、作業効率の改善及び人員削減のため、県単事業を活用して高性能根葉切り皮剥き機2台を導入した。機械導入により、ねぎに触れる回数が7回から5回に削減されたため、品質低下を防ぐとともに、作業効率も改善された。また、ライン稼働に要する従業員を削減でき、人員の確保が容易になった。

ウ セル苗定植機の利用拡大

生産者の協力を得て、移植機が導入されていない地域での実演等を行うことで、管内全域にセル苗利用が拡大した。令和2年には11台となる見込みで、全作付面積の約40%で利用されることとなった。

4 将来の方向と課題

(1) 新規生産者の定着、増加

長生農業独立支援センターや生産者組織等と協力し、新規生産者を増やし基本的な栽培管理技術の習得を図る活動を継続する。また、技術が向上した新規生産者に対しては、所得増加を図るために規模拡大へ誘導する。

(2) 生産・出荷体制の強化

5つある管内のねぎ生産団体間の情報交換を進めることで、生産技術の交流を促し、品質格差をなくし、生産出荷体制のさらなる強化を図る。併せて、各地域に定着している若手新規生産者同士の結びつきを強化する。

5 担当者 西部グループ：小林良旭

トマト黄化葉巻病の被害減少を目指して

— キルパーによるトマト古株枯死技術の検討 —

活動事例の要旨

トマト黄化葉巻病対策として、栽培終了時のキルパー処理によるトマトの古株枯死及びコナジラミ類の殺虫効果の試験を行ったところ、処理後の捕殺数はほぼ0に近い値まで減少した。複数の作型が混在している当産地においては、栽培終了時のキルパー処理は、トマト黄化葉巻病のまん延防止に有効な手段と考えられた。

1 活動のねらい・目標

長生地域のトマト栽培では、トマト黄化葉巻病（写真1）の被害による減収が問題となっている。被害が拡大する要因の一つに、栽培終了後の片付け作業に伴い、ウイルスを媒介するタバココナジラミ及び伝染源となるトマトの古株がほ場外に放出されてしまうことが挙げられる。

そこで、栽培終了時にかん水処理をすることで、古株枯死及び殺虫効果がある、土壌くん蒸剤「キルパー」の試験を行い、現地における効果を検討した。



写真1 トマト黄化葉巻病

2 活動の内容

(1) 現地試験の実施

今年度は下記の2ほ場（2作型）で試験を実施した。

キルパーを液肥混入機で任意の希釈倍数でかん水処理後、それぞれ3日間あるいは4日間ハウスを密閉した。試験ほ場では処理後の枯死程度の達観調査、処理前後のコナジラミ類の粘着板（ホリバー）への捕殺数を計測した。

ア 試験ほ場概要

	半促成トマト (次作：抑制キュウリ)	アールスメロン (次作：越冬トマト)
面積	1,600 m ² (480 坪)	1,000 m ² (300 坪)
使用薬剂量	80ℓ (4 缶)	40ℓ (2 缶)
希釈倍率	約 70 倍	約 100 倍
処理期間	令和2年7月7日～7月10日	令和2年7月20日～7月24日

イ 試験結果

(ア) 枯死の程度

トマトでの処理前と処理3日後の株の様子は写真2、3のとおりである。試験ほ場は地下水位が高く、慣行の抜根・蒸し込み処理では枯死しにくい条件であったが、条件が整ったほ場での慣行処理と同等程度まで枯死させることができた。メロンにおいても、慣行の処理方法と同等かそれ以上の枯死効果を確認できた。

(1) コナジラミ類捕殺数

処理前後のコナジラミ類の捕殺数は表1のとおりである。半促成トマト・アールスメロンともにキルパー処理後の捕殺数はほぼ0に近い値まで減少した。

(2) 現地検討会の開催

アールスメロン部員を対象に、キルパー処理の現地検討会を開催し、12名が出席した。メーカー担当者を講師に、キルパーによる古株枯死効果及び処理方法の説明を行い、実際にメロンほ場でキルパーの処理方法を確認した。



写真2 キルパー処理前



写真3 キルパー処理3日後

表1 コナジラミ類の捕殺数

	半促成トマト		アールスメロン	
	処理前	処理後	処理前	処理後
①	147	0	415	4
②	45	1	278	0
③	505	0	472	0
④	178	0	833	0
⑤	341	0	178	0
⑥	15	0	133	0
⑦	192	0	1471	0
⑧	80	0	541	0
⑨	32	0	92	0
⑩	46	0		



写真4 現地検討会の様子

3 活動の成果

慣行の片付作業では、株の抜根とハウスの蒸し込みを行っているが、作業の手間と天候によって枯死の程度が安定しない問題がある。キルパーを使用すると、抜根せずに立毛状態での処理で慣行の処理と同等の効果を得ることができた。ほ場主からは、省力効果を評価する意見があり、後作の片付け時には自らキルパー処理を行った。

4 将来の方向と課題

栽培終了時のキルパー処理による古株枯死及び殺虫効果は、トマト黄化葉巻病のまん延防止に有効な手段と考えられる。一方で生産者からはコストの増加を懸念する意見が多くあった。引き続き、費用対効果の試算と各作型に適した処理方法の検討を行い、現地での普及を目指した活動を行う必要がある。

5 担当者 東部グループ：宍倉悠太、松本浩平、野口琴未

中山間地域におけるスマート農業技術活用体系の構築を目指して

— 農薬散布用ドローン・リモコン草刈機の実用性を検証 —

活動事例の要旨

山間谷津田が多く平坦地の少ない長南町で、稲作のスマート農業技術の導入を目指して、農薬散布用ドローンによる航空防除及びリモコン草刈機の検証を行った。

ドローンによる防除では、1時間当たり 3.3～4.8ha の薬剤散布が可能で、散布精度はラジコンヘリと大きな差がないことがわかった。リモコン草刈機は、斜度 35～40 度程度の法面では除草作業時間を 9 割削減できたが、斜度 45 度以上が多い水田畦畔では、利用できる法面が限られることが検証できた。

この検証を踏まえ、長南町では補助事業を活用し計 10 台の農薬散布用ドローンを導入し、町の水稲航空防除を町内の経営体（法人・個人）が担う体制の構築に向けて動き出した。

1 活動のねらい・目標

長南町は水田率が高く、水稲が町の基幹品目となっている。耕作者が高齢化していることから集落営農組織や個別経営体を主要な担い手として農地集積を推進しているが、谷津田が多く畦畔の段差が大きい等の条件から、畦畔の除草などの管理作業の労力不足が課題となり、農地集積の妨げとなっている。一方、近年の天候不順も相まって、谷津田を中心に斑点米の多発生による品質低下等が発生し、収益性の低下に繋がっている。

長南町のような条件不利地域で、担い手への農地集積を進め地域の農村環境を維持するため、中山間地域で活用できるスマート農業技術を用いた営農体系の構築に取り組んだ。

2 活動の内容

(1) 事業の活用

独自に農薬散布用ドローンの実演会等を実施していた長南町農地保全課に、地域の実情に合ったスマート農業技術の検証に活用できる「千葉県スマート農業総合推進対策事業（次世代につなぐ営農体系確立支援事業）」を紹介した。農地保全課が事務局を持つ長南町農業推進協議会を取組主体とし、農薬散布用ドローンとリモコン草刈機を検証することで、事業に取り組むこととなった。

(2) スマート農業技術の検証

ア リモコン草刈機

リモコン草刈機を販売している 2 社の機種を検証した。斜度 35～40 度の法面で、100m の作業時間が 2.3～3 分（換算値）であり、刈払機による作業時間（聞き取り）の 5% と大幅な時間短縮となった。



写真 1 草刈機の性能を確認

オペレーターは安全な場所で立ち姿勢で作業ができるため、作業者の負担や疲労は刈払機と比べるとかなり軽減できると考えられた。

一方、2機種のリモコン草刈機が対応できる傾斜が最大で40度、45度であり、水田の畦畔が45度以上であることが多いことを考慮すると、リモコン草刈機を利用できる水田畦畔に限られるため、現状では現地への導入は難しいことがわかった。

イ 農薬散布用ドローン

長南町で導入を検討している2機種について、町内2地区（比較的谷津田が多い地区、比較的ほ場がまとまっている（平地）地区）で実証試験を行い、作業時間、散布精度、防除効果を調査した。

1時間当たりの作業面積はT20では4.8ha、MG-1では3.3haとなった。また、実機での検証により、効率の良い利用方法や充電の注意点等を確認できた。散布精度はラジコンヘリと同等だった。株元への薬剤の到達ではラジコンヘリに若干劣った。

防除効果を確認するため、すくい取りやフェロモントラップによりカメムシ類の捕殺数と、斑点米数を調査したところ、ドローンの方が防除効果が劣る結果となった。薬剤が異なること、ドローンでの防除時に強い降雨があったこと等が影響したものと思われた。



写真2 ドローンによる防除の検証

(3) 産地営農体系革新計画の策定

以上の結果を踏まえて、長南町農業推進協議会で産地営農体系革新計画を検討し、策定した。併せて、メーカーを講師に最新のスマート農業技術の講演会を実施した。

3 活動の成果

現地での検証結果から農薬散布用ドローンの導入機種が選定できた。長南町農地保全課が中心となって、国庫事業を活用し計10台を導入する事となった。次年度以降、数年をかけて、営農組織や個別経営体が航空防除の担い手となり長南町全体の航空防除面積560haを網羅する体制を構築していく。

ドローンの導入を皮切りに、スマート農業技術に対する関心が高まり、次年度にはセンシング技術とそれに基づく可変施肥の検証にも取り組む事が計画されている。

4 将来の方向と課題

中山間地域の水田の管理では、除草と水管理に多くの時間と手間がかかっている。これらを解決できる技術については導入に至っていないことから、情報収集や検証を継続する。スマート農業技術は導入コストが高いため、費用対効果を確認しつつ、導入を進める必要がある。

5 担当者 西部グループ：田中亜紀子、渡邊健一郎

地域に根ざした生活改善グループ活動

— アグリライフ長生設立 60 周年～この 10 年間で振り返って —

活動事例の要旨

アグリライフ長生(現会員 27 名)は、昭和 35 年に設立し、生活改善活動に取り組んできた。令和 2 年で設立 60 周年を迎え、この 10 年間の活動を 2021 年用カレンダーとしてまとめた。この間、会員は知識技術向上のための研修会や情報交換など様々な取組を行い、地域の先駆的な女性農業者の経営参画と仲間づくりをすすめている。

1 活動のねらい・目標

近年は台風や大雨、新型コロナウイルス感染拡大の影響から先行きが不透明で不安な日々が続いている中、農業農村を取り巻く情勢も大きな転換期を向かえており、アグリライフ長生では次のような活動目標を立てている。

- (1) 農業経営に関する知識や技術を習得して、主体的に経営参画し、所得の向上と経営の安定をめざす。
- (2) 農村に伝わる食文化の技術を次世代に継承する。
- (3) 農村女性団体の交流を深め、男女共同参画社会の実現に向けて、積極的に行動する。

2 活動の内容

(1) 60 周年記念の集い

設立 60 周年の節目に、関係者と共に懇談することを計画したが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、会員のみでソーシャルディスタンスをとって開催した。集いではこの 10 年間の活動記録をとりまとめた「思い出のスライドショー」を鑑賞して活動を振り返った。



写真 1 60 周年記念の集い

(2) 60 周年記念カレンダーの作成

12 ヶ月をひと月ごとにテーマを決め、過去 10 年間の活動の中から印象の深い行事を選び、1 年以上の歳月をかけ理事会で何回も校正を重ね作り上げた。

先輩方が築き上げた数々の技術や知恵を次の世代へ引き継ぎたいという会員の気持ちを込めて作成した。



写真 2 60 周年記念カレンダー

(3) この10年間の活動（平成23年から令和2年までの活動記録一覧の作成）

ア 地域農産物加工（郷土料理）

地域農産物を使った豆腐やトマトケチャップや味噌などの加工技術や太巻き寿司などの郷土料理の研修、レンコン・落花生・玉ネギなどのレシピ・特産品づくりなどを行った。併せて、先輩の起業活動から新たな経営参画手法を学んだ。

イ 食育活動

食育教育支援事業を活用し、茂原樟陽高校と連携した小学生への「豆腐作り」指導や「ぐるっと長生フェスタ」*で地元食材を利用した昼食提供などの活動を行った。

ウ ちば県女性農業者ネットワークとの連携

「農業経営や社会活動に主体的に参画して経営の発展と農村振興」を掲げ、ちば県女性農業者ネットワークとも連携し研修会など積極的に参加している。

エ 視察研修

長生地域女性農業者ネットワークとも連携し、毎年県内を中心に直売所の視察や生活改善グループの交流会を行い、積極的な情報交換を行っている。

※自然豊かな長生地域をノルディックウォークで巡るイベント（長生地域観光連盟主催）

3 活動の成果

(1) 普及事業功労者表彰

長年、生活改善活動に取り組み、男女共同参画社会を牽引し、地域で活躍する女性リーダーを輩出したこと、また、会員各々が女性の経営社会参画やパートナーシップ農業経営を実践していることなどを通して、地域農業の活性化に寄与した功績から、千葉県農業改良普及事業70周年記念大会において表彰された。

(2) 食育ボランティア

農業や食文化体験など農村の地域資源を生かした長生の味を研究し、商品化できる技術を確立により、地域農業の活性化に貢献した。

(3) 農村に伝わる食文化の継承

会員相互の生活技術を生かし、農産物の加工に関する知識や技術の習得を通して、農村に伝わる食文化の伝承と個々の農業経営に役立てることができた。

(4) 主体的な経営参画

近年の自然災害に備えて暮らしと農業を守るための意見交換や直売所・加工施設の運営に関する研修会などを開催し経営参画に前向きに取り組んだ。

4 将来の方向と課題

今後、住みよくやりがいのある農業農村をめざし、農業経営の向上や地域の活性化を進めるために、以下の3項目を重点に70周年に向けて活動を継続していく。

(1) 次代の農業を担う若手女性農業者の積極的な経営参画

(2) 産地や地域農業に参画できる女性リーダーの育成

(3) 情報交換や協力・連携できるネットワークづくり

5 担当者 西部グループ：染谷 肇

施設花き栽培における微小害虫の防除

— I P Mによるバラの害虫防除 —

1 活動のねらい・目標

長生地域の施設花きの栽培において、近年、ハダニ類、アザミウマ類、コナジラミ類などの微小害虫による被害が増加し、それによる病害の発生や収量・品質の低下が問題となっている。害虫の薬剤抵抗性の獲得により、化学農薬による防除だけでは効果が十分得られなくなっていることが大きな要因と考えられる。特に周年栽培を行っているバラでは、開花前の蕾の中や農薬がかかりにくい場所に害虫が侵入することが多く、通常の化学農薬の散布では防除することが困難である。また、施設内には常に作物があるため、害虫の根絶も困難である。

そこでバラで問題となっているハダニ類、アザミウマ類の対策として天敵を利用し、化学農薬だけに頼らない、I P Mによる防除体系を検討、普及することで被害の軽減や農薬散布にかかる労力の軽減を検討した。

2 活動の内容

(1) 天敵の導入

対象となるバラでハダニ類の天敵であるミヤコカブリダニとアザミウマ類の天敵であるスワルスキーカブリダニの耐水・保湿性のパック製剤を設置し、その効果の確認を行った。また、天敵を導入する前には、天敵に影響の少ない農薬を散布し、害虫の密度をできる限り下げた後から天敵を導入する、ゼロ放飼を行った。導入後も、天敵に影響の少ない農薬による防除を併用し、巡回時に達観による微小害虫の発生程度の確認を行った。



写真1 天敵設置の様子

(2) 効果

天敵導入前はハダニ類、アザミウマ類が大量に発生していたが、導入から2週間後には減少に転じ、数をほぼ0に抑えることができた。毎年、ハダニ類、アザミウマ類が発生していた時期でも、導入後は発生が見られなかった。バラは葉も商品の一部であるため、天敵の導入前はハダニの被害により葉を取ってから出荷しなければいけなかった。しかし、天敵の導入により葉も一緒に出荷できるようになったことで葉を取る労力が減り、品質の良いバラを生産することができた。また、農薬散布の回数、コストも導入前と比べて3割減少し、労力の軽減につながった。

天敵と化学農薬を併用した防除体系を確立していくために、次年度以降も天敵の利用による微小害虫防除の効果を確認していく必要がある。

3 担当者 東部グループ：野口琴未

ジャンボタニシ対策技術の実証

— ジャンボタニシによる水稻の被害減少を目指して —

1 活動のねらい・目標

長生地域においては海側の地域を中心に、数十年前からスクミリンゴガイ（俗称：ジャンボタニシ）による水稻の食害が多発している。特に令和2年度は暖冬の影響等により大きな被害となった。そこで、ジャンボタニシ対策技術の実証を行い、その効果を確認するとともに技術普及の可能性を探った。

2 活動の内容

（1）田植同時散布機を活用した薬剤の田植同時散布

ジャンボタニシ防除では、水稻移植後の薬剤散布が効果的であるが、近年個々の経営規模が拡大しており別途ジャンボタニシを対象とした薬剤散布の作業時間を確保することが難しい経営体が増加している。そこで、田植同時散布機を活用した防除を一宮町で実施した。田植同時散布の22日後に、田植同時散布機を使用したほ場（試験区）と動力散布機を使用したほ場（慣行区）の欠株率を調べたところ、試験区が2.7%、慣行区が14.2%となった。この結果から田植同時散布機を使用した場合、別途薬剤散布を行わなくても、高い防除効果が得られることが分かった。



写真1 田植同時散布

（2）石灰窒素散布

ほ場内のジャンボタニシを減らすことでその越冬を防ぐため、殺貝効果のある石灰窒素を稲刈り後の10月に一宮町と長生村のほ場に散布した。石灰窒素散布の数日後に試験枠内に放流したジャンボタニシを回収し、その生死を確認した。その結果、一宮町のほ場では殺貝率84.8%、長生村のほ場では殺貝率100%となった。この結果から石灰窒素の散布は殺貝効果があり、ほ場内のジャンボタニシを減らすために有効であることが確認できた。

（3）農業用ブルドーザーによる均平化

薬剤や石灰窒素を散布するに当たっては、均一な散布ができるよう田面が均平であることが望ましい。また、田面に凸凹があると、水の溜まる部分にジャンボタニシが集まることで却って被害が集中することを防ぐために均平化が重要である。そこで、農業用ブルドーザーによる均平化と併せて畦畔除去による大区画化の実演会を開催した。農業用ブルドーザーの活用で効率的な作業が行われることが確認できた。今後は、担い手を中心に期待できると技術と思われる。

3 担当者 西部グループ：渡邊健一郎、東部グループ：佐藤龍一

長生農業独立支援センターと連携した新規就農者の確保

— 農業次世代人材投資事業（準備型）研修の活用を見据えて —

1 活動のねらい・目標

長生地域の農家は 65 歳以上が 7 割以上を占め、県内でも高齢化が進んでいる。トマト、ねぎ等は歴史ある産地であるが、いずれも 10 年後には生産者が大きく減少することが見込まれ、産地維持のために担い手の育成は急務となっている。

このような状況の下、平成 30 年度から J A 長生を中心に長生地域の新規就農者のための支援センター設立の気運が高まり、一宮町、長生村、白子町と長生農業事務所とともに令和元年 6 月に長生農業独立支援センター協議会を設立した。また、令和元年 8 月には農業次世代人材投資事業(準備型)の認定研修機関となった。農業事務所では、新規就農者確保に向けて、支援センターと連携した活動を展開している。

2 活動の内容

就農相談は農業事務所でも行っているが、相談の内容によっては支援センターと連携して相談会を行っている。支援センターの研修生に対しては、「農業経営体育成セミナー」の受講のほか、経営開始に必要な様々な研修会への誘導や就農計画の作成支援などを行っている。また、支援センターと共に定期的に研修先農家を訪問して研修の進捗状況や体調なども確認している。

相談者が希望する品目は野菜、果樹、畜産など様々であるが、全体の 1 / 3 は品目が未定である。本年度の研修の受入れはネギ、トマトで実施している。ネギについては、数年前に一宮町に新規参入した生産者が研修生を受入れ、自身の経験をもとに指導に当たっている。また、トマトの研修生は J A 長生施設野菜部会が受入れ、白子町の部会員のもとで研修中で、農業次世代人材投資事業(準備型)を受給している。研修後は空きハウスを借りて同町での就農を予定している。

また、令和 2 年 12 月には「長生(ながいき)農業見学&体験バスツアー」が開催され、就農希望者など 16 名が参加した。参加者は梨、トマト、ネギについて先輩農業者からの体験談を聞き、ほ場や出荷調製施設の見学、収穫体験などを行った。終了後には、参加者から農地探しの相談なども複数あり、長生管内への就農が期待されている。令和 3 年 3 月には、ねぎコース、トマトコースに分かれて 3 日間の農業体験会も予定されている。新規就農者確保から定着に向けた活動を各機関と連携して行っていく。



写真 1 梨栽培の説明に聞き入る参加者

3 担当者 東部グループ：本居真一

長生ヤングパワーズクラブが長生地域の農業の魅力を発信！

— 地域の特産物紹介ポスターを作成 —

1 活動のねらい・目標

長生ヤングパワーズクラブ（以下YPC）は、若手農業者が意欲的に農業経営及び地域活動に取り組み、自家経営の発展はもとより、農業青年がリーダーシップを発揮できるように活動している。そこで、地域活動の一環として、小・中学校生や教員が、地元で生産される農産物について興味を持ち、更に農業への理解を深めることを目指し、地域特産物紹介ポスターを作成した。

2 活動の内容

(1) 長生地域の特産物紹介ポスターの作成

この活動は、以前、YPC会員が先生と交流した時に、「子供達に地元で生産される野菜について知って欲しい」、先生方には「農業についての理解を深めた上で子供達に農業の知識を伝えて欲しい。」と思ったことがきっかけで始まった。

YPC会員が生産している野菜を始め、長生地域の特産物について調べ、市町村ごとにどのようなものが生産されているかが一目でわかる地域の特産物マップを作成し、それらの特産物の特徴をまとめた特産物紹介ポスターを作成した。

(2) 管内市町村の教育長との意見交換

小・中学校でのポスター活用を依頼するため、YPC会員が分担して農業主務課を通じて、長生管内7市町村の教育長を訪問し、ポスターを手渡し、農業分野の教育や食育活動等について意見交換を実施した。

YPC会員からは、「農業の魅力を子供達に伝え、少しでも農業に興味を持って欲しい。」とポスターに込めた思いを伝えた。教育長からは、「児童・生徒、また先生にとって農業の理解を深めることや地域交流はとても重要、是非とも連携していきたい。」等貴重な意見を頂き、地域の若手農業者と教育機関との今後の連携につながる機会となった。

3 担当者 西部グループ：吉田早希、小林良旭



写真1 長生地域の特産物紹介ポスター

(一般情報)

令和2年度長生農業経営体育成セミナー開講

長生農業事務所改良普及課 令和2年6月30日発

農業事務所は、6月25日に、長生合同庁舎で農業経営体育成セミナーの開講式を開催しました。本セミナーは長生地域の新規就農者を対象に、経営者としての資質・能力の向上を図り、次代の地域農業を担う人材を育成することを目的に、技術や農業経営の研修を行うものです。今年度は15名が参加しており、親元就農者だけでなく、新規参入者が3割を占めるなど、就農に至った経緯は十人十色です。

開講式終了後には大規模水稻農家を視察し、先輩農家の経営事例や、農業者としての心得などを学び、活発な意見が交わされました。セミナー生からは、「同世代の農業者がたくさんおり、心強く感じました。」という感想がありました。

農業事務所では、地域の貴重な若手生産者が、今後、地域農業の中心的な経営体となるよう、関係機関と連携して支援していきます。



開講式にて



ライスセンターにて視察

(一般情報)

長生（ながいき）メロンの出荷が始まりました

長生農業事務所改良普及課 令和2年7月1日発

JA 長生施設野菜部会アールスメロン部では、26 名が「長生（ながいき）マスクメロン」を栽培しています。6月18日に、JA 長生グリーンウェーブで出荷規格の目合わせが行われ、20 日に出荷が開始されました。糖度が14以上あり、甘くて美味しい高品質の長生メロンは、7月15日頃まで出荷される予定です。

今年は、日照時間が多く確保される一方、気温の変化が激しく、栽培管理が難しい年となりましたが、6月27日に「ながいき市場（※）」で開催された品評会には、いずれも外観や食味の優れた20点の出品があり、生産者の栽培技術の高さがうかがわれました。

農業事務所では、今後も生産者の栽培管理技術の向上を図るとともに、より多くの消費者に「長生メロン」を手にとってもらえるよう、JA等の関係機関と連携して支援をしていきます。

※ながいき市場：JA 長生が運営する農産物直売所の名称



出荷規格の目合わせ中



品評会でメロンの外観審査

(一般情報)

若手農業者が農業の魅力を発信！

～青年農業団体（長生 YPC）が地域農業啓発ポスターを作成～

長生農業事務所改良普及課 令和2年9月7日発

長生地域の青年農業者8名で組織される長生 YPC（ヤングパワーズクラブ）は、小・中学生を対象にした長生地域の特産物紹介ポスターを 200 部作成し、郡内7市町村の教育長を訪問、学校での活用を依頼すると共に、農業分野の教育や食育活動等について意見交換しました。この活動は、以前、YPC のメンバーが先生と交流した時に、子供達に地元で生産される野菜について知って欲しい、先生方には農業についての理解を深めた上で子供達に農業の知識を伝えて欲しい、と思ったことがきっかけで始まりました。

意見交換では、教育長から「生徒、先生にとって地域交流は重要、ぜひ連携させていただきたい。」、YPC のメンバーから「農業の魅力を子供達に伝え、少しでも農業に興味を持ってほしい。」等の意見が出されました。

農業事務所では、今後も長生 YPC の積極的な活動を支援します。



小・中学校用に作成したポスター



長生 YPC のメンバー紹介

(一般情報)

ジャンボタニシの被害軽減と耕作条件改善に向けて

～農業用ブルドーザー活用実演会を開催～

長生農業事務所改良普及課 令和2年11月4日発

農業事務所では、10月29日に重機メーカー、管内生産者等の協力を得て、近年注目されている農業用ブルドーザーの実演会を開催したところ、管内外の大規模生産者、営農組合員及び関係機関から、約80名の参加がありました。

農業用ブルドーザーは、ジャンボタニシの被害軽減に向けた浅水管理に必要なほ場の均平化や、耕作条件の改善に向けた排水対策(弾丸暗渠施工、溝切)、畦畔除去(合筆化)等の作業を、高い精度で実施することができます。参加者は、作業後のほ場高低差、県内外の施工事例等について熱心に質問するなど、ジャンボタニシ防除・耕作条件改善の両面での関心の高さが伺えました。

農業事務所では、関係機関等と協力して、今後も経営者のニーズに合わせた水稻栽培技術・経営改善とともに条件整備についても支援を実施していきます。



多くの生産者が参加



畦畔除去作業

(一般情報)

「長生農業フォーラム2020」の開催

～ 引き継ごう豊かな農地・広げよう新たな未来～

長生農業事務所改良普及課 令和2年11月24日発

長生農業フォーラム実行委員会(※)と農業事務所では、11月11日に「長生農業フォーラム2020」を一宮町のホテルシーサイドオーツカを会場に開催しました。3密回避のため入場者数を制限し135人と例年の半数程度の参加者での開催となりました。

始めに千葉県農業会議の専門員、高岡晃氏から、「豊かな農地を次代に引き継ぐ」という題で、「人・農地プランの活動」についての基調講演をいただきました。参加者からは「人・農地プランとは、現状を把握し集落の未来を語る活動だと改めて認識できた。」との感想がありました。続いて新規就農者の事例として、一宮町で水耕レタス栽培に取り組む株式会社ファーストライフの御園生丈裕代表取締役と、町外から移住し就農歴6年目の久保善子氏から、就農の経過と今後の抱負について発表がありました。

農業事務所では、団体活動の支援を通じて、地域農業の活性化に取り組みます。

(※)長生農業フォーラム実行委員会とは、長生地区指導農業士会、千葉県農業士協会長生支部、長生農業研究会、アグリライフ長生、長生ヤングパワーズクラブの5団体で構成される組織。



千葉県農業会議 高岡 晃氏による講演



会場内は新型コロナウイルス感染症予防のため隣席は空けて着席

(一般情報)

ねぎ収穫作業の負担軽減に向けて ～アシストスーツを装着した作業体験を実施～

長生農業事務所改良普及課 令和2年11月30日発

ねぎの収穫は、中腰姿勢が続くなど長時間同じ作業となるため、体への負担がとても大きくなります。そこで農業事務所では、11月18日に、作業負担の軽減を目的に、農業ベンチャー企業の協力を得て、腰をサポートする「アシストスーツ」の検討会を開催したところ、ねぎ生産者10名とJAの参加がありました。ほ場で参加者が実際にアシストスーツを装着し、「抜き取り作業」や「根きり作業」などを体験しました。参加者からは、「抜き取り時の中腰作業の姿勢が、座った感覚になるので体が楽！台風後の直し作業にも良いかも。」、「装置になれるまでは時間がかかりそう。」、「補助事業があると導入しやすい。」など、多様な意見が出ました。その場で購入を決める生産者もあり、負担を軽減したい生産者が多いことも再確認できました。

農業事務所では、今後も産地の継続に向け、現地の課題解決に取り組んでいきます。



検討会の様子



体への負担軽減効果を確認する生産者

(一般情報)

経営管理能力の向上を目指して

～農業経営基礎研修会を開催～

長生農業事務所改良普及課 令和2年12月11日発

農業事務所では、12月2日に、会計知識の習得による若手生産者の経営管理能力の向上を目的に、農業経営基礎研修会を開催したところ、経営体育成セミナー生、新規就農者、長生 YPC（4Hクラブ）、若手女性農業者など16名の参加がありました。

税理士を講師に迎え、複式簿記や青色申告のすすめと消費税、決算書をみるポイントなどについて、講義を受けました。

参加者からは、「会計ソフトを活用して複式簿記に取り組もうと思った。」「消費税制の今後の情勢が参考になった。」など、今後の経営の道筋を考えるための機会になったという声が聞かれました。

農業事務所では、今回の開催結果を踏まえ、若手生産者のニーズにあった研修等を企画し、将来の地域農業の担い手を支援していきます。



熱心に講義を聴く参加者

主な出来事

日 時	内 容	場 所	参加者数
令和2年4月7日	※新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令		
4月8日	J A 長生施設野菜部会 長段トマト部会合同会議	J A グリーンウェーブ長生	7
4月13日	令和2年度長南町農業推進協議会会議	長南町役場	17
4月20日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン全ほ場巡回	一宮町、白子町	30
4月24日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト部会議	J A グリーンウェーブ長生	10
5月14日	睦沢町農業技術者連絡会議	睦沢町役場	7
5月18日	農事組合法人長生産直トマト部圃場巡回	白子町	10
5月20日	令和2年度ジャンボタニシ緊急防除対策事業 (防除対策省力化技術の実証事業) 現地見学会	一宮町	26
5月21日	J A 長生施設野菜部会 長段トマト部巡回	一宮町	9
5月22日	長南町農業技術者連絡協議会	書面	-
5月22日	(農) 川島営農組合通常総会	書面	-
5月23日	(農) 長南町東部営農組合通常総会	書面	-
5月23日	(農) 長南西部営農組合通常総会	書面	-
5月25日	令和2年度長生農業改良普及事業協議会総会	書面	-
5月27日	「長生(ながいき)農業塾」ねぎコース	長生村	10
5月28日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン全戸巡回	一宮町	30
5月29日	第8回長生いちじく研究会総会	長生合同庁舎	6
6月4日	長柄町ニンニク生産組合査定会	日吉第一水稲営農組合事務所	21
6月10日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマト部会議	J A グリーンウェーブ長生	17
6月10日	J A 長生施設野菜部会 養液トマト部・長段トマト部合同会議	J A グリーンウェーブ長生	16
6月12日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン部視察研修会	暖地園芸研究所	8
6月16日	睦沢町サツマイモほ場巡回	睦沢町	13

日 時	内 容	場 所	参加者数
6月18日	J A 長生施設野菜部会 令和2年産アールスメロン査定会	J A グリーンウェーブ長生	33
6月19日	ジャンボタニシ緊急対策事業現地検討会	白子町福島青年館	20
6月23日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン試験品種検討会	J A グリーンウェーブ長生	7
6月24日	長南町蓮根組合令和2年産蓮根ほ場巡回	長南町	16
6月25日	令和2年度農業経営体育成セミナー 開講式及び研修会	長生合同庁舎・茂原市	11
6月26日	睦沢町甘藷生産組合設立に係る協議・設立総会	睦沢町農村環境改善センター	21
6月26日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマト栽培講習会	J A グリーンウェーブ長生	36
6月26日	一宮町農業技術者連絡会議	一宮町役場	7
6月27日	JA長生主催長生マスクメロン品評会	J A 長生ながいき市場	18
6月29日	令和2年度長生農業研究会通常総会・研修会	長生合同庁舎	19
6月29日	長南町露地野菜出荷組合第4回通常総会	J A 長生長南支所	12
6月30日	令和2年度長生いちご研究会通常総会	書面	-
6月30日	長生村稲作研究会 稲作現地検討会	長生村	22
7月1日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン試験品種検討会	J A グリーンウェーブ長生	7
7月2日	令和2年度長南町農業推進協議会会議 リモコン自動草刈機検証会	長南町東部営農組合	41
7月3日	J A 長生施設野菜部会 令和2年養液トマト部夏期販売会議	J A グリーンウェーブ長生	34
7月3日	長生酪農研究会 酪農研修会	茂原市	6
7月3日	睦沢町ブランド米開発研究会 通常総会及び生育調査	睦沢町	15
7月9日	千葉県睦沢町甘藷生産組合講習会・打合せ	睦沢町あおば農園	14
7月9日	白子町稲作研究会 水稻試験圃場巡回	白子町	18
7月10日	茂原市本納いちご生産組合第28回通常総会	J A 長生本納支所	6
7月10日	長南町構造政策推進会議	長南町	18

日 時	内 容	場 所	参加者数
7月12日	令和2年度長南町農業推進協議会 ドローンによる防除検証会	長南町	25
7月15日	長柄町イチジクほ場巡回	長柄町	9
7月15日	農業経営体育成セミナー（病害虫防除）	長生合同庁舎	8
7月16日	秋冬野菜栽培講習会	J A 長生長南支所	11
7月21日	令和2年度長南町農業推進協議会 ドローンによる防除検証会	長南町	15
7月21日	一宮・岬梨組合 令和2年産「幸水」査定会	J A グリーンウェーブ長生	22
7月27日	白子町農業振興連絡協議会	白子町役場	18
7月29日・30日 8月4日	長生ヤングパワーズクラブ 地域農業啓発ポスターの配付	管内市町村教育委員会	20
8月3日	長生村農業技術連絡会議	長生村	12
8月3日	J A 長生主催農産物共進会（梨・幸水）	J A グリーンウェーブ長生	20
7月10・21・28・31日 8月5日	水稲採種ほ ほ場審査	長南町	58
8月6日	「粒すけ」現地検討会	長生村	38
8月7日	睦沢町甘藷生産組合視察研修会	千葉県農林総合研究センター水稲・畑地 園芸研究所 他	17
8月7日	白子町次世代施設園芸研究協議会設立総会	白子町役場	9
8月17日	長生イチゴ研究会育苗巡回	茂原市・一宮町・長柄町	10
8月18日～9月7日	農業大学校農業派遣実習受入れ（前期）	白子町	1
8月18日・20日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマトほ場巡回	白子町	19
8月20日	農事組合法人長生産直トマト部ほ場巡回	白子町	10
8月21日	J A 長生施設野菜部会 青年部台風対策ほ場現地巡回	一宮町・白子町	11
9月10日	J A 長生施設野菜部会 抑制キュウリ査定会	J A グリーンウェーブ長生	25
9月10日	J A 長生施設野菜部会 抑制トマト査定会	J A グリーンウェーブ長生	24
9月10日	「長生（ながいき）農業塾」ねぎコース	長生村	10

日 時	内 容	場 所	参加者数
9月15日	J A 長生施設野菜部会 越冬トマト全戸圃場巡回	一宮町	28
9月23日	長生いちご研究会 イチゴの花芽検鏡会	長生合同庁舎土壌診断室	6
9月28日	令和2年産さつまいも現地検討会	睦沢町	13
9月30日	J A 長生施設野菜部会 長生トマトを考える会	J A グリーンウェーブ長生	26
10月1日	農業経営体育成セミナー（土壌肥料）	長生合同庁舎	7
10月6日	J A 長生施設野菜部会 令和2年産アールスメロン反省会	J A グリーンウェーブ長生	26
10月7日	農事組合法人七渡営農組合総会	茂原市七渡営農組合	20
10月9日	ブロッコリー・ロメインレタス圃場巡回 ソラマメ講習会	J A 長生長南支所	14
10月9日・14日	J A 長生施設野菜部会 養液トマト部巡回	白子町	20
10月14日	長生ヤングパワーズクラブ視察研修会	幕張メッセ	5
10月15日	J A 長生施設野菜部会 令和2年産越冬期トマト査定会	J A グリーンウェーブ長生	25
10月16日	長生露地野菜出荷組合ほ場巡回	長生村	10
10月20日	J A 長生施設野菜部会 養液南部支部・長段トマト部巡回	一宮町	9
10月23日	令和2年産実需者提携米・「粒すけ」実績検討会	J A 長生北部営農購買センター	12
10月29日	ジャンボタニシ対策等における 農業用ブルドーザー活用検討会	茂原市	80
10月29日	白子町次世代施設園芸研究協議会【第1回検討会】	白子町	9
10月30日	長生女性農業者ネットワーク 研修会実行委員会	長生合同庁舎	5
10月30日	「長生（ながいき）農業塾」ねぎコース	長生村	10
11月4日	一宮・岬梨組合研究部ナシ品種研修会	J A いすみ岬支所	18
11月5日	令和2年度長生WCS生産出荷協議会臨時総会	長生村	25
11月5日	令和2年度千葉県睦沢町甘藷生産組合臨時総会	睦沢町	20
11月6日	令和2年産「ながいき梨」生産・出荷反省会	J A グリーンウェーブ長生	20

日 時	内 容	場 所	参加者数
11月11日	文化の日千葉県功労者表彰（農林水産功労）授与式 （茂原市 秋葉節子氏）	長生合同庁舎	15
11月11日	長生農業フォーラム2020	一宮町	135
11月12日	アグリライフ長生 60周年記念の集い	長生合同庁舎	21
11月13日	令和2年度茂原蔬菜出荷組合研究会 中間ほ場巡回	茂原市	20
11月20日	睦沢町妙楽寺林業振興会剪定講習会	睦沢町	18
11月26日	一宮・岬梨組合生産部農業講習会	J A グリーンウエーブ長生	35
11月27日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン全体会議	J A グリーンウエーブ長生	28
11月30日	ブロッコリー並びにロメインレタス査定会	J A 長生長南支所	19
11月30日	長生いちご研究会 イチゴ圃場巡回	茂原市・一宮町・長柄町	9
12月1日	長南町構造政策推進会議	長南町	19
12月1日	長生女性農業者ネットワーク 研修会実行委員会	長生合同庁舎	5
12月2日	令和2年度農山漁村男女共同参画長生地区推進会議	長生合同庁舎	17
12月2日	農業経営基礎研修	長生合同庁舎	23
12月6日	長生農業独立支援センター ながいき農業バスツアー	一宮町・長生村・白子町	16
12月8日	「長生（ながいき）農業塾」ねぎコース	長生村・白子町	10
12月9日	農業経営体育成セミナー（夷隅と相互訪問）	夷隅・長生	7
12月9日	J A 長生施設野菜部会 養液北部ほ場巡回	白子町	16
12月10日	農事組合法人長生産直ミニトマト部ほ場巡回	白子町	9
12月11日	本納蔬菜部研究部試験ほ場巡回	J A 長生本納支所	40
12月11日	J A 長生施設野菜部会 青年部黄化葉巻病対策「青年部ほ場巡回」	白子町	11
12月14日	長南町農業推進協議会会議 （スマート農業技術の紹介）含む	長南町役場	16
12月14日	農業経営体育成セミナー（露地野菜）	茂原市	3

日 時	内 容	場 所	参加者数
12月17日	白子町次世代施設園芸研究協議会【第2回検討会】	白子町	11
12月17日	令和2年度白子町稲作研究会反省会	J A 長生白子支所	20
12月18日	白子町玉葱出荷組合葉玉葱部会 葉玉葱巡回	白子町	9
12月18日	ねぎ出荷調製施設会議	J A 長生白子支所	10
12月21日	令和2年度新規就農者等交流会	長生村	23
12月22日	長生いちご研究会ほ場巡回	茂原市・長柄町・一宮町	9
12月23日	睦沢町甘藷生産組合 法人化説明会・ポット育苗講習等	睦沢町役場3階会議室	20
12月24日	※県内で高病原性鳥インフルエンザ発生		
12月25日	長生露地野菜出荷組合玉葱部 葉玉葱圃場巡回	長生村	7
1月6日・7日 8日・12日	J A 長生施設野菜部会 春期トマト支部別巡回	一宮町・長生村・白子町	48
1月14日	農業経営体育成セミナー（農業機械研修）	農業大学校機械化研修科	6
1月15日	令和2年度千葉県指導農業士認証式典 （茂原市 菅谷信弘氏）	長生合同庁舎	7
1月18日	白子町玉葱出荷組合葉玉葱部会 葉玉葱査定会	書面	-
1月19日	ジャンボタニシ対策研修会	長南町、睦沢町	30
1月21日	白子町次世代施設園芸研究協議会【第3回検討会】	白子町	10
1月26日	長生Y P C・セミナー相互訪問	茂原市・白子町	10
1月30日	長南町 給田営農組合通常総会	書面	-
1月30日	長南町 地引農機利用組合総会	書面	-
2月2日・4日・5日	J A 長生施設野菜部会 春期トマト支部別巡回	一宮町・長生村・白子町	50
2月3日	無人トラクター実演	一宮町	25
2月5日～2月25日	農業大学校農家派遣実習受入れ（後期）	一宮町、白子町	2
2月9日	集落営農先進地事例調査（職員のみで実施）	市原市	4

日 時	内 容	場 所	参加者数
2月13日	睦沢町 岩井第二営農組合総会	睦沢町 (岩井区民センター)	13
2月16日	白子町次世代施設園芸研究協議会【第4回検討会】 ※リモートによる座学	白子町	8
2月16日	「長生(ながいき) 農業塾」ねぎコース閉講式	J A 長生本所	10
2月17日	J A 長生主催農産物共進会 (葉玉葱)	白子町	9
2月19日	令和2年度長生地域普及活動検討会	長生合同庁舎	33
2月24日	白子町次世代施設園芸研究協議会【第5回検討会】	白子町	9
2月24日	J A 長生施設野菜部会 春期トマト査定会	J A グリーンウエーブ長生	33
2月24日	J A 長生主催農産物共進会 (秋冬ネギ)	J A 長生本納支所	15
2月25日	睦沢町甘藷生産組合通常総会	睦沢町	20
2月28日	アグリライフ長生通常総会	書面	-
3月2日・3日 5日・8日・9日	J A 長生施設野菜部会 春期トマト支部別巡回	一宮町・長生村・白子町	50
3月4日	農事組合法人長生産直トマト部ほ場巡回	茂原市・長生村・白子町	6
3月5日	長生農業経営体育成セミナー閉講式	長生合同庁舎	20
3月5日	長生ヤングパワーズクラブ総会	長生合同庁舎	10
3月11日	長生地区指導農業士会総会	長生合同庁舎	20
3月12日～14日	長生農業独立支援センター 短期農業体験研修	一宮町・長生村・白子町	10
3月15日	J A 長生施設野菜部会 アールスメロン栽培講習会	J A グリーンウエーブ長生	10
3月17日	長南町蓮根組合 蓮根情報交換会	J A 長生長南支所	12
3月21日	千葉県農業士協会長生支部総会	書面	-

令和2年度普及活動の実績
普及活動の軌跡
(Part-26)

発行年月 令和3年3月

発行 千葉県長生農業事務所 改良普及課

〒297-0026

千葉県茂原市茂原1102-1

TEL 0475-22-1771

FAX 0475-25-2061

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei>